



はばたけ未来へ 赤穂

市民福祉講座

人生100年時代を迎え、社会環境も家庭環境もさまざまに変化しています。人は人との関わりの中で、一喜一憂しながら、さまざまな価値観を持って生きています。どう生きるかを問う意味で、

「一人ひとりが輝いて生きる」

をテーマに開催します

会場：総合福祉会館

3階集会室

【3回シリーズ】

受講料 1,000円

定員60名(先着順)

市内在住・在勤者優先

事前予約制

参加希望者は、受講料を添えて、赤穂市社会福祉協議会窓口（総合福祉会館 赤穂市中広 267 電話 42-1397）で6月14日（月）から7月5日（月）の平日午前9時～午後5時にお申込みください。（定員になり次第終了）。
※新型コロナウイルス感染症の状況により、行事を中止または縮小する場合があります。

第1回

7/10[土]

午後1時30分～

3時30分

「私たちが知らないひきこもりのこと」

～8050問題と当事者の思い～

ジャーナリスト

KHJ全国ひきこもり家族会連合会 理事 池上 正樹 氏

20年以上にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、1000人以上の当事者とやりとりしてきた。東日本大震災後は被災地に入り、ひきこもり当事者が震災でどう行動したかを調査。2012年から都内で開かれている対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵-IORI-」（毎月全国から百数十人が参加）の設立メンバー。テレビやラジオにも出演。NHKドラマ「こもりびと」「星とレモンの部屋」「ひきこもり先生」の監修も務める。著書に『ルポ「8050問題」高齢親子「ひきこもり死」の現場から』（河出書房新社）など。



「阪神淡路大震災から26年」

～壁を越え、想いをつなぐ～

つなぎ人 米津 勝之 氏

1960年芦屋市生まれ。阪神淡路大震災にて被災し、当時7歳の長男と5歳の長女を失う。後に誕生した次男が、亡き兄のランドセルを背負い学校に通う様子が、「世の中の扉 にいちゃんのランドセル」（著：城島充/講談社）として書籍化。大きな反響を得て、ドキュメンタリードラマ化された。また松本俊明氏により歌も作られCD化もされた。

震災の記憶を風化させないため、過去と現在と未来のつなぎ手として、小学校での講演など、次世代に語りつなぐ活動を精力的に行っている。

著書に「わすれないあなたのことを－漢之と深理のいる風景」（ラ・テール出版局）がある。

第2回

7/17[土]

午後1時30分～

3時30分



第3回

7/24[土]

午後1時30分～

3時30分

「壊されゆく子どもたち」

～夜回り先生、いのちの授業～

花園大学 客員教授 水谷 修 氏

横浜市で長く高校教員として勤務。12年間を定時制高校で過ごす。生徒指導を担当し、非行・薬物汚染・心の問題に関わり、生徒の更生と、非行防止、薬物汚染の拡大の予防のための活動を精力的に行う。

また、「夜回り」と呼ばれている深夜の繁華街のパトロールを通して、多くの若者たちとふれあう一方で、全国各地からのさまざまな子どもたちからの相談に答え、不登校や心の病、自殺などの問題にも関わる。

その経験をもとに、執筆、テレビ、ラジオなどへの出演、講演などを通して、子どもたちが今直面しているさまざまな問題について訴えている。著書に「夜回り先生と夜眠れない子どもたち」（小学館文庫）など。

